

## 平成 29 年度第 1 回笛吹市芦川町地域審議会会議録

### 開催日時

平成 29 年 6 月 2 日（金）午後 6 時 00 分～

### 開催場所

芦川支所 2 階会議室

### 出席者

- ・地域審議委員  
市川(正)委員、丸山委員、田中委員、芦澤(孝)委員、芦澤(友)委員、霜村委員、市川(栄)委員、芦澤(政)委員、芦澤(義)委員、宮川(正)委員、宮川(武)委員 計 11 名
- ・山下市長
- ・須田総務課長、小宮山経営企画課長、小澤経営企画課政策推進担当 L
- ・事務局 霜村支所長、丸山地域住民課担当 L、石田(利)・石田(和)・青山担当

### 欠席者

芦澤卯作委員、藤間由紀委員 計 2 名

### 傍聴人 なし

### 次 第（進行：事務局担当 L）

#### 1. 開会（支所長）

#### 2. 委嘱状交付

- ・市長より委嘱状を交付（11 名）

#### 3. 役員選出（選任前に委員、職員自己紹介）

- ・事務局案として、会長に田中徳広委員、副会長に市川正彦委員を提案。
- ・全委員より承認を得る。

#### 4. 会長あいさつ

皆さまから承認をいただき、大変不慣れだが、皆さまに協力いただき進めていきたいので、協力願う。

#### 5. 市長あいさつ

いくつか報告や説明をする。都市計画税については、本来ならこの 4 月からの課税となっていたが、1 年先送りとした。市民の皆様にしっかり意見を聞いた上で決めていきたいと考えている。

次に、NTT 用地については、土地開発基金を利用し、5 月に 4 億 5 千万円で購入した。議会からの幾つかの課題についても、一つ一つすり合わせ対応ができた。活用策については、1 年～2 年をかける中で、多くの意見を聞き、ワークショップなども開催しながら、よりよい活用を検討したいと考えている。また、活用策が決まるまでの間、用地を放置せず、イベントなど

に活用していきたいので、6月議会に整地や維持管理を行う予算を計上し、民間の方々にも使ってもらいたいと考えている。駅の広場や、朝市、フリーマーケットのように、活用してもらいながら、色々な意見をいただき、より良い活用方法を模索していきたい。

次に、ハートフルタウン笛吹についてである。これは難しいことでなく、ただ、やさしいまちをつくっていききたい。住んでいる方々がこのまちに住んで良かったと思えるような幸せが実感できるまちにしていきたいということ。資料は、ハートフルタウン笛吹の構成である三つのセクション「1. 幸せ実感」「2. 新たな農業」「3. 観光再生」から、予算面も含め、より分かりやすく説明ができるような内容になっている。

まず、「1. 幸せの実感（安心安全の確保）」から。

災害が起きた時に、生活が出来るように備蓄の事業を昨年より増額して進める。次に消防本部の中部・東部・春日居の3つの出張所を統合して、境川、一宮の2出張所にし、年度内の完成を目指している。防犯灯のLED化促進事業については、区の電気料の負担が減少することから、今後も推進していく。4月から始めたごみ袋の有料化については、いろいろと意見をいただいているが、ごみの量が有料化したこの1ヶ月間で2割ほど減少している。笛吹市のごみ袋の値段は30円。近隣他市では、15円。このことで多くの異見をいただくが、笛吹市は可燃ごみだけが指定の有料袋で、それ以外のごみは無料。他市では、すべて有料。よって、他市よりは市民の負担が少ない。将来的には他市も笛吹市方式になると思う。子育て支援については、全自治体の課題でもあるが、本市としてもしっかり取り組む。

「2. 新たな農業」について。

世界農業遺産への認定は無理だったが、日本農業遺産に認定されたので、これを利用して売り込んでいく。農業用機械補助事業も好評なので、予算を増額し進めていく。

「3. 観光再生」について。

目と鼻の先にある富士河口湖町は、観光面で富士山の世界遺産登録後絶好調の状態。ここと連携し、甲府市、山梨市、甲州市とともに富士山フルーツ連絡協議会を立ち上げ一緒にやっていく。そのためにも新道峠を整備していく。また、郡内は富士山の噴火を懸念し防災意識が高い。富士吉田市は新御坂トンネルを開けると言っている。富士河口湖町は芦川から八代の射撃場へ抜けるトンネルを掘って欲しいと言っている。私が甲府市から東の期成同盟会の会長をやるので、そこをお願いしていく。市川三郷線のカーブはきつく、観光バスのルートとしては厳しい。トンネルが開けば観光ルートも変わり市にとって有効と考えるので、しっかり取り組んでいく。

以上が平成29年度に取り組んでいくハートフルタウン笛吹の一端ではあるが、財政も厳しいので、行財政改革もしっかりやっていく。その他にも支所業務の見直しや縮小なども必要な段階にきているので、これはそれぞれの地域の皆様の意見をいただきながら検討していく。以上、私からのあいさつとする。

## 6. 議 事（笛吹市地域審議会条例第7条4項により会長が議長）

（会長）

### (1) ハートフルタウン笛吹について

ハートフルタウン笛吹について、市長のあいさつの中で説明があつたが、議事(2)行政課題

の説明後に一括して意見交換を行なう。

## (2) 行政課題について

(総務課長)

資料の1つは、都市計画税の概要。芦川地域はこの都市計画区域には入っていないが、芦川町以外で市内に土地を持っており、その土地が都市計画区域であれば、課税の対象となる。都市計画税条例の制定は行っているが、さまざまな理由により今まで課税を延期して来た経緯があり、この4月から課税となっていたが、1年延期し、この1年掛けて課税の可否について、市民のさまざまな意見を聞いた上で、判断し決めていきたい。

次に、支所業務の見直しと課題についてである。平成28年2月に、28年度と29年度の2カ年かけて支所業務の一部を本庁へ移管する内容の説明をさせていただいた。平成28年度から実際に支所業務が本庁に移管されているものもあり、引き続き平成29年度もさらに支所の業務を移管し、支所業務の縮小を予定していたが、山下市長に市政が代わり、先ほどの都市計画税同様に、ここで1年かけ、各地域の意見や要望をしっかりと聞き、再度十分に検討することにした。

なぜ支所の業務を縮小するのかというと、人口減少や地方の財政運営が非常に厳しいことと、維持可能な笛吹市とするために機能の集中と効率化が必要であり、支所のあり方もこの方向で検討が必要となったため。これは行財政改革の一環でもある。ただし、一方で、市民の立場や視点から今の支所はどのような役割を果たしているか。また、市民から支所に何を求められているか。市民が感じるサービスの低下とは何なのか。支所になくてはならない業務とは何か。その点をもう一度十分検証していきたいと考えており、最終的に目指すところは、市民や地域に必要な支所機能の確保であり、行政組織のスリム化を実現するための合理的、効率的な業務執行と人員配置を考えていきたい。

なお、今までに各支所で行われてきた区長会や地域審議会に出席し、支所のあり方を説明したところ、資料にもあるように、課題についての意見もあった。詳細の意見内容は資料に記載されているとおり。以上で説明を終了する。

(会長)

何か質疑があるか。

(委員)

都市計画税は、芦川町には直接は関わらないような説明だったが、この芦川町で育った子供や兄弟などが笛吹市内の各町で生活し、土地や住居、アパート等を持っていれば都市計画税に関わってくる。また、課税について、ここ何年も先延ばししているが、市民の理解を得るうえで、しっかりした方針を固め、取るものは取り、払うものは払い、サービスも十分してもらう方向にしてほしい。

また、支所業務の見直しについては、芦川の地域性を十分考慮してほしい。

(総務課長)

この都市計画税は目的税なので、何にでも使えるものではない。充当できる都市計画事業は、下水道の整備や公園整備、ごみ処理場の整備など。税率0.2%で課税した場合、税収額は約5億2千万円が見込まれる。今はこの都市計画事業に一般会計からの予算を充てているので、都市計画税を徴収すれば一般会計予算分は他の事業に使えることになる。

(会長)

その他には。

(委員)

将来的には、各支所の統廃合はあるのか。

(市長)

支所の統廃合については、私が市長をやっている任期中には無いことだけは申し上げられる。

(総務課長)

1つ課題として、公共施設の老朽化に伴い、場合によっては支所の庁舎機能に不具合が生じ、支所業務を別の施設に移動して行うなどの対策を講じるような事態もありうる。ただし、今すぐにはではなく、近い将来にはそういうことも考えられる。

(市長)

芦川は小学校の体育館を新しく建て替えたばかりなので、将来的には保育園の機能を学校に設けることも必要かなと思っているが、支所を統合、例えば八代支所と芦川を統合するような考えは今のところは一切考えていない。私が市長をやっているうちはございません。

(会長)

芦川町鶯宿地区には、鶯宿分校があり、昭和46年頃まで分校として活用していたが廃校となり、その後、山村留学などで村外から来た方に施設を提供したりもしていたが、ここ十数年は廃校のまま教育委員会でも手も付けていないので、危険な状態。解体処分を考えてほしい。

(市長)

この件については、後で詳しく聞かせていただきたい。

### (3) その他

特になし。

## 7. その他

特になし。

## 8. 閉会 (副会長)

互礼を交わし終了 (午後7時10分)